
IS 転生者なのか？

めれむ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

IS 転生者なのか？

【Nコード】

N7948Z

【作者名】

めれむ

【あらすじ】

暗闇の世界を通過してISの世界へとたどり着く
インフィニット・ストラトス

初投稿の何番煎じになるか分からないIS二次創作です。

原作崩壊、キャラ崩壊、他作品の要素を含みます。

苦手な方は読まない事を推奨します。

プロローグ（前書き）

初投稿作品故にいろいろ拙い点もあるでしょうが宜しく願ひします。

プロローグ

。。
ここは、何処なのだろうか。

何も聞こえず、見渡す限り真っ暗闇な空間が広がっている。

浮いているのか、沈んでいるのか。進んでいるのか戻っているのかもわからない。

急に何かもやの様なモノが自分の中に入って来る。

普通は体内に異物が入ると不快感を感じるのだが、これには不快感を感じなかった。

やる事もないのでそのもやの様なモノを真剣に受け容れる事にした。

。

受け容れ始めてどれだけの時間が経過しただろうか。

もつとも、視界に変化はなく音も聞こえない空間で時間の判別など出来るわけがないのだが。

もやを受け容れている途中に、生まれてからずっと感じる事のなかった感覚に襲われる。

例えるならそれは生きるか死ぬかの瀬戸際にいるようなものだろうか。経験してない以上ろくな例えにならないが。

恐らく戦慄という言葉がしっくり来るだろう。

受け容れ終わると戦慄は消え失せてしまった。結局、あのもやは何だったのだろうか。

そう考えていると急に視界に光が入る。

暗所、それも光のない空間になれきってしまった目に光をあてると非常に痛い。明順応なんてレベルの話ではない。

文句を言ってやろうと口を開ける。しかし、それは言葉らしい言葉を発せず、産まれたての赤子がするような泣き声を上げただけで終わってしまう。

わけもわからずパニック状態になってしまう。

そんな中、いきなり抱き上げられパニックが加速。

少しやつれているとはいえかなりの美人がベッドにいた。

「この子が…私達の子ね…」

…この黒髪美人が僕の母親だろうか。何故だろう、すぐにそう理解してしまった。

ベッドの横には優しそうな好青年がいる。この人が父親なら少なくとも両親には恵まれたと言えるよう。

「よく頑張ったな、俺達の子供はお前に似て綺麗になるぞお〜」

「あら、この子は貴方に似てとっても優しい子になってくれるわよ
お〜」

「あははははは！（うふふふふふ！）」

…良い両親なんだけど重度の親バカもといバカ親なようです。

人は見た目で判断するな、とはよく言ったものだねえ。

「シラー、この子の名前どうしようか？」

僕の母はシラーと言うそうです。

お願いですからいわゆるDONネームはやめて下さいね？

「ニール、慣習に従って真名はシオンはどうかしら？」

僕の父はニールと言うs…僕はアトラスの錬金術師とは違うぞ。

うん？慣習？真名って？

「シオン…ああ、真名は頭文字がSから始めるってヤツか。ならこの子の名前はセツナ・アナスタシア、そのまま真名はシオンでどうだ？」

「セツナ…いい名前ね、何か由来とかあるの？」

「歴史から見て一瞬にも満たない人生を幸せに生きてほしいから、かな（昔の仲間の名前ですだなんて言えるわけねえだろ…）」

…父さん。僕には普通に聞こえてるんですが。

「ぶつちやけると男女問わずこの名前はしっくりくるからだな」

父さん！！？

「流石ニールね！そこまで考えてたなんて！」

母さん！！？

駄目だこの両親、まともじゃない…ッ！

「見てニール、シオンが喜んでるわ！」

「いい名前を付けてもらえたからだろう」

∴ まあDQNネームじゃないから良しとしますか。

そんなこんなでアナスタシア家の一員になりました。

プロローグ（後書き）

気付いた方いますよね？

父は緑がパーソナルカラーのあの人は？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7948z/>

IS 転生者なのか？

2011年12月26日00時58分発行